

# 避難のカスケード(滝) ①率先避難者が多くの命を救った

東日本大震災では、地震発生から津波到達まで30分から1時間ほどの時間がありました。どうすれば避難することができるのか。何が生死をわけたのか。

今、津波避難の専門家が注目しているのが、「避難のカスケード」です。\*カスケード：連なった小さな滝、連鎖的に物事が生じる様子

宮城県石巻市の門脇・南浜地区、海に面した住宅地の奥にある標高60メートルの日和山。震災の日、「ここに多くの人が避難し助かっていました。この時の避難行動を分析した富士通研究所の牧野嶋文泰さんは、人が避難した理由に注目しました。

日和山に避難した人のうち、半数近くは、「津波から逃げる目的ではない人」がたどり着いていたのです。

【避難できるきっかけカギとなる「率先避難者」】

なぜ、こうした人が日和山までたどり着けたのか。カギとなっていたのが門脇小学校です。

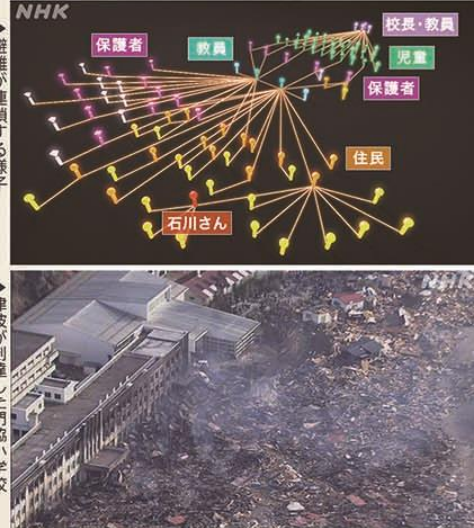
当時の校長、鈴木洋子さんは地震の直後、児童224人を日和山まで避難させると決断します。当時、門脇小学校は津波の指定避難所になっていましたが、「災害に絶対の安全はない」という考えで、地震発生の15分後には日和山まで避難していたのです。

実はこの行動が、多くの命を救うきっかけとなっていました。

まず保護者です。津波から逃げる明確な意思がなくても「子どもに会いに行かない」と「子どもの無事を確認したい」という理由で日和山に向かい助かっていました。当時の日和山で撮影された映像からは、子どもの傍らに多くの保護者がいることがうかがえます。

避難に踏み切れない状況を打ち破り真っ先に避難をし始める人を「率先避難者」といいます。

(3月9日 NHK NEWS WEB)



避難が連鎖する様子

津波が到達した門脇小学校

避難行動の専門家、東京大学大学院特任教授の片田敏孝さんは、「率先避難者は避難の弾み車のような役割で、避難するかしないか迷う膠着(こうちやく)した状況を変え、周囲を避難するんだという雰囲気に向かわせることができる重要な役割を指摘しています。」

【率先避難者が連鎖し広がる「避難のカスケード」】

さらに、この「率先避難者」は、学校と関係の薄い地域の住民までも日和山までひっぱりあげる効果がありました。その一人が石川芳恵さんです。

当時、津波への意識はなく、日和山まで避難することは全く考えていませんでした。

そんな石川さんが日和山まで行くことになったのは、小学校の校庭にいた知人の女性が「高台まで避難して」と声をかけたことでした。

石川さんは、「多くの人が校庭で戸惑っていたけど、知人の女性が『子ども日和山へ避難しました。皆さん』

んも山が上がってください」と言われ、そのとき、逃げなきゃと思ったといいます。

知人の女性が、こうした声がかげができたのは、保護者の対応をするためにとどまった教員から、「山へ逃げろ」と言われたからでした。

教員から知人、知人から石川さんへの避難が連鎖しました。こうして、「津波から逃げる目的ではない」という住民が、日和山へたどり着いていました。分析を行った牧野嶋さんは、身近な人だけでなく、関係性のない人にまで避難が連鎖する様子を、滝の流れになぞらえ、「避難のカスケード」と名付けました。

【自分の避難行動は、考えている以上に、その先の人にも影響することが示唆される】と牧野嶋さんは話します。

校長と児童の率先避難からまず、保護者へ広がった避難。保護者のなかには、3人の住民に声をかけ、日和山まで導いた人もいました。

さらに、校庭にとどまった教員からは、保護者だけでなく、住民に繰り返し避難が連鎖していました。

【指定避難所だった門脇小学校は津波に巻き込まれた】

その後、想定をこえる津波は安全とされたはずの門脇小学校にまで到達しました。火災も発生し大きな被害となりました。門脇・南浜地区では545人が犠牲になりました。知人からの声がかげで日和山までのぼった石川さんは、「あの声がかげなければ、私はおそらく死んでいたかもしれない」と振り返っています。

(一部要約及び改行は文責による)

次号『②避難できなかった人の傾向も明らかに』

we support RQ 災害教育センター

MONTHLY 復興支援 『すけさきた』 改め 『しんぶん』

「すけさきた」とは 宮城県登米市あたりの言葉で 「ボランティアに来たよ」という意味である

APRIL 11 2021

